

らの共同利用の成果は共同利用成果報告書として毎年刊行されている。

現在のセンター教員 11 名は、物理、化学、生物、工学など広い分野で、施設を利用した特徴ある研究を継続しており、同時に本学大学院工学研究科の量子放射線系専攻において大学院教育も担当し、毎年修士、博士の大学院生の教育を行い、修了生を送り出している。さらに文部科学省の原子力人材育成イニシアチブ事業に参画し、消防防災関係、民間企業など産学官の様々なレベルの技術者に対して当センターの施設を利用した実践的な放射線教育と実習を行い、高い評価を得ている。

また高校生などの学生に対する施設見学や一般市民に対する基礎的な放射線教育も学園祭など学内の種々のイベントや近畿圏の放射線関係団体と共同して、「みんなのくらしと放射線展」の活動も毎年継続して開催しており、今年度も「第 38 回みんなのくらしと放射線展」を WEB 開催中である（みんなのくらしと放射線展 (housyasen-fukyu.com)）。

### 3. 近年における放射線教育の NPO 活動— 中学校教員の支援を中心に —

NPO 法人 放射線教育フォーラム 事務局長 田中隆一

放射線教育フォーラムは放射線・原子力の専門家、学校教育関係者の有志によって構成されるボランティア組織(2000年にNPO認証)であり、当該分野に対する一般市民の公的資質涵養を目的に、学校教育を主対象として20数年間活動してきた。

義務教育における放射線学習指導復活の政策提言がフォーラム設立13年後に実を挙げたが、成果として期待された中学校の放射線授業再始動の直前に3.11事故が発生した。2年遅れて、授業実践をためらう学校現場に向けて熱意ある教員との意見交換の場を計8回設けた。授業支援活動などに加えて、放射線知識普及の立場から、一専門家から観た放射線に関わる教科書記述の懸念材料に言及された。

## 連携機関との共催行事など

### 第18回放射線プロセスシンポジウム実施報告

- ・主催：放射線プロセスシンポジウム実行委員会  
(ONSA：支援機関、協賛機関、実行委員会メンバー)
- ・2021年11月16-17日 Web開催 参加者約100名
- ・実施内容 各種産業分野における放射線利用に関する最新の研究成果の講演とポスター発表並びに情報交換

詳細は、第18回放射線プロセスシンポジウムホームページをご覧ください。

([http://www.rada.or.jp/fukyu/18th\\_sympto/top\\_page.html](http://www.rada.or.jp/fukyu/18th_sympto/top_page.html))

### 保物セミナー実施報告

- ・主催：保物セミナー実行委員会  
(ONSA：共催機関、実行委員会メンバー)
- ・2021年12月16日 Web開催 参加者約90名
- ・実施内容 「原子力・放射線及び原子力・放射線の影響を受ける環境及び人体影響」等に関連する討論会 ONSA担当の「テーマ2」は、第75回放射線科学研究会を兼ねて実施

詳細は、NPO法人安全安心科学アカデミーホームページをご覧ください。

(<http://anshin-kagaku.news.coocan.jp>)